

## O13-074

### 1歳6ヶ月児健診受診者の親におけるベビーフードの使用状況と意識

外川 晴香<sup>1)</sup>、荻野 大助<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>名寄市立大学 保健福祉学部 栄養学科、

<sup>2)</sup>名寄市立大学 保健福祉学部 教養教育部

【目的】離乳食期は生涯にわたる健康づくりの基盤となる重要な時期であるが、少子化や核家族化等により、親の離乳食を作る負担は大きくなっている。ベビーフード（以下、BF）は乳幼児の離乳を手助けする目的で市販されている加工食品のことをいうが、BFの利用により親の離乳食づくりの負担軽減になることが考えられる。そこで本研究では、離乳食期におけるBFの使用状況や意識への実態調査結果を考察し、今後の離乳食づくり支援の一助とすることを目的とした。

【研究方法】2021年5月から2022年7月にかけて、1歳6ヶ月児健診を受診した子の親全員を対象とし、無記名自記式の質問紙調査を実施し、郵送法で91名（46.4%）から回答を得た。調査項目は、BFの使用頻度、種類、場面、BFを使用した理由、BFを使用しなかった理由、BFについて感じたこととした。

【結果】BFの使用頻度について、1回食期で「使用しなかった」、2回食期で「週3～5回」、3回食期で「週1～2回」「週1回未満」が上位の回答率であり、1度も使用しなかった者は1人であった。種類について、1回食期で「粉末タイプ」、2回食期で「そのまま食べられるもの」「だしやスープ」、3回食期で「そのまま食べられるもの」が、場面について、1回食期で「手作りが面倒なとき」、2回食、3回食期で「旅行や外出をしたとき」が上位の回答率であった。BFを使用した理由については、「外出時に便利」「調理が簡単だから」が、BFを使用しなかった理由については、「手作りを与える」「味が濃い」が上位の回答率であった。

【考察】離乳初期では、初めて食品を口にする時期であり、子が食べられる量や種類が少ないため、手作りを与えると考える親が多くいたと考えられる。離乳中期以降は薄い味付けができる時期なので、だしやスープのBFを使用することで味にバリエーションをもたらすことができる。また、親が子育てに慣れ外出が多くなり、その際にそのまま食べられるBFを使用する頻度が増えたことが考えられる。後期になると親の食事からのとりわけがしやすくなり、自宅でのBFの使用頻度が減ったと考えられる。多くの親がBFを利用していたが、使用頻度は多くなかったため、今後はBFの活用法を支援内容に組み込むことが有効であると考える。

## O13-075

### 保健師を対象としたわかりやすい母子健康手帳パイロット版のわかりやすさと使いやすさに関する調査

藤澤 和子<sup>1)</sup>、杉浦 絹子<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>びわこ学院大学 教育福祉学部 スポーツ教育学科、

<sup>2)</sup>西南女学院大学 助産別科

【目的】育児経験のある知的障害の親の意見を参考に、令和5年度4月1日施行の母子健康手帳省令様式と一部の任意様式に準拠した内容をわかりやすい表現で書き直し編集したパイロット版を制作した。知的障害とその疑いのある妊産婦の担当経験のある保健師を対象に、パイロット版のわかりやすさと使いやすさについて調査したので報告する。【方法】パイロット版はA5版80頁カラーで作成した。2024年7月～10月、調査対象条件に合う保健所・保健センター所属（都市部6カ所）の保健師28名を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。目次～出生届、妊娠、出産、乳児、幼児、発達曲線、予防接種、今までにかかった主な病気～連絡カード、の8項目のわかりやすさ（ことば・文章の理解のしやすさ、文字・イラスト・レイアウトの見やすさ）、使いやすさ（見たい箇所の見つけやすさ、対象者が記入する欄の書きやすさ、対象者への説明のしやすさ）について5段階の評価とその理由を求めた。研究実施前に所属大学の倫理審査の承認を得た。【成績】保健師の年齢は23歳～62歳で平均41歳、職務上の妊娠・出産・子育て支援の経験年数は1年～40年で平均13年、知的障害のある（疑いも含む）の妊産婦・母親の担当人数は2～50名、現在担当中は10名だった。8項目全体のわかりやすさについて、わかりやすい87（40.3%）、ややわかりやすい56（25.9%）、どちらともいえない56（25.9%）ややわかりにくく13（6.0%）、わかりにくく4（1.9%）、使いやすさについて、使いやすい79（36.6%）、やや使いやすい53（24.5%）、どちらともいえない59（27.3%）、やや使いにくく17（7.9%）、使いにくく8（3.7%）であった。高評価を5、低評価を1にして、5・4の評価理由には、イラストがある・色使いが見やすい・専門用語等に説明がある・一般的な手帳と同順序の構成・最初の頁に相談先が書ける・だれが書くかが全頁記入されている・発達曲線の数値の記入欄がある・体重と身長のグラフが別頁・保健師が説明しやすい等があった。3～1の評価理由には、文字が小さい・文字が多い・説明が長い・検査の説明が難しい等があった。【結論】5、4の評価を合わせると、わかりやすさと使いやすさのどちらも60%以上あったことから、知的障害のある妊産婦に適した手帳だと考える。一方で、3～1の評価理由に文字サイズや文字の多さ、説明の難しさ等の意見があり、完成に向けてこれらの意見を反映させる必要性がある。